



のお知らせ

2008年から Bangladesh のラルシュ・マイメンシンで活動してきた岩本直美ワーカーが一旦帰国しています。この度、活動報告会をカトリック静岡教会でも開催することとなりました。岩本さんの仲間たちは、クリスチャンとイスラム教徒が、共に尊重し合い、「見よ、兄弟が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び」(詩編133編1節)のみ言葉を、文字通り讃美されながら歩まれています。

皆様、ご参加ください。今の時に、私たちにとって一番大切なことは何かを学びあいましょう。

日時：2019年11月23日(土) 午前10時～11時30分

場所：カトリック静岡教会 聖堂 静岡市葵区城内町1-5

内容：活動報告 「弱さがつむぐ命の物語」

岩本 直美 氏 JOCS (日本キリスト教海外医療協力会) ワーカー



プロフィール

看護師・滋賀県出身。大津赤十字看護専門学校卒業後、地元の病院や福祉施設で、障がい児療育に携わる。途上国で働くことを願いアジア諸国に滞在し、福祉施設やNGOでボランティアとして働く。JOCSワーカーとして、1993年から Bangladesh ・ボグラで第1期の活動、障がいのある人たちの自立支援に携わる。ロンドン大学地域主導型リハビリテーション修士号を取得後、1997年に、 Bangladesh ・マイメンシンに赴任、2008年からラルシュ・マイメンシン・コミュニティで共同体のリーダーを務めている。カトリック麹町教会聖イグナチオ教会所属。

活動報告内容

ラルシュと「信仰と光」の創立者ジャン・バニエが、5月7日御父のもとに還られた。彼の最後のメッセージは平和に満ちたもので美しい。

"I am deeply peaceful and thankful. I'm not sure what the future will be but God is good and whatever happens it will be the best. I am happy and give thanks for everything. My deepest love to each one of you."

「私は深い平安と感謝に満たされています。この後どうなるか私には分かりません。

しかし神様は善いお方ですから、何が起こるにしてもそれが最善と信じています。私は幸せです。全てのことに感謝しています。皆さんお一人お一人に、私のこころからの愛をお贈り致します。」自分が死ぬ時、このジャンの言葉を携えて死ぬことが出来れば何と素晴らしいことかと思った。

ジャンについて私が何より深く感動するのは、人の痛みに対する感性の深さである。この偉大な霊的指導者に導かれつつ、小さく弱くされた人たちと共にこれからも歩んでいきたいと心から願う。

・カトリック静岡教会への行き方

【徒歩】 JR 静岡駅より徒歩25分程度、新静岡駅より徒歩20分程度

【静鉄バス】 JR 静岡駅北口より、県立総合病院高松線、あるいは大浜麻機線のバス利用、

「英和女学院前」で降りて、堀に掛けてある小さな橋を渡ってすぐ左側が静岡教会です。

※ 公共交通機関のご利用にご協力をお願いします。

・問い合わせ先 ラルシュかなの家 佐藤 言 Tel 054-206-0830
こひつじ診療所 JCMA静岡部会 武井 陽一 Tel 0538-23-0660

11月24日(日) 10時～11時45分 場所:浜松・アクト研修交流センター51号室(楽器博物館5階)にて、岩本直美氏に引き続き、同じテーマで証しをして頂きます。ご自由にこちらにもご参加ください。主催:浜松聖書集会(代表:武井陽一) 後援:ラルシュかなの家